

2024年 4月 22日

2023年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 ドレミの仲間
 代表者・理事長 氏名 坪田 将

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

ドレミの仲間フェスティバル ～音楽を通じた地域との懸け橋～

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1989年「音楽を楽しみたい」という重度障がい児5名の思いを受けて活動をスタート、身体・知的等の障がい問わず活動の輪を広げてまいりました。障がい児者の方々にとってはまだ数少ない余暇活動の場であり、全国的にもほとんど例がない「音楽」に特化した活動を行なっています。2012年にNPO法人取得。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

ドレミの仲間の活動は「音楽を楽しむ」ことであり一般的な生活・就労の場を提供する福祉施設とは一線を画します。昨今のコロナ禍の中で、ドレミの仲間は一時期、半年以上の休所を余儀なくされました。確かに音楽活動に参加しなくても生活に直接的な影響はないのかもしれませんが、歌を歌う・ドラムを叩く等、音楽と共に過ごす時間は会員だけでなく、職員、関係者の皆様に多くの癒しと元気をもたらすと信じています。自粛が続いたドレミの仲間と共に、社会へ力強い力と元気を！そんなイベントとなればと考えます。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

ドレミの仲間の活動の成果を利用者自身が発信するコンサートを継続すると共に、彼らが就労している就労施設の自主製品を販売するブースを設け、コンサートから発展した地域の福祉施設のお祭りのような形式でイベントを行います。障がい者自身、関係者・音楽に興味のある方だけでなく、地域の方に障がい者の余暇活動のみならず生活・就労様々なことを発信する場とします。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

「結果」2024年3月23日 参加者数およそ88名 外部参加者13名
 「成果」利用者のみなさんは笑顔多く、楽しく過ごされた様子でした。以前には前に出て来られなかった方がステージで演奏するようになり、職員ミニコンサートを鑑賞した後に木琴やウォッシュボード等職員演奏で使われた楽器をやりたい、と手に取って演奏する様子もありました。保護者の方々も生の音楽に触れ、いい音楽会でした！と晴れ晴れとした表情でお帰りになりました。
 「社会的な変化」コンサートを開催することによって、就労の場の事業所や地域のコミュニティカフェに参加いただいたり、銀行や町内会の方々から駐車場をお借りできたり、地域の連携を感じる事ができました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

コロナ禍は終わった様に感じられますが、まだまだ続いているようにも思います。いつもと同じように音楽を楽しみたいのに、間が空いてしまった為に、体力がなくなって来所出来なくなった方など相次いでいます。障がい分野ではまだ外出を控えている施設もあるため、次年度に向けて広報活動に力を入れて行きたいと考えています。ドレミの仲間の活動は、言葉では説明し尽くせないところがあり、動画を作成中です。障がい児

者の余暇活動は、孤立化防止、第3の場所として大切な場所と考えます。これからも、地域で連携を深めて活動していきたいと考えています。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

